



## みんなの水泳……日々徒然

### IDMベルリン大会について

#### ▶はじめに



この会場は外はグラウンデルベルの公園になっていて、地下にプールがあります。昔はシェルターだったとのこと、地下側の入り口に続く通路では柱などが当時のまま残されていました

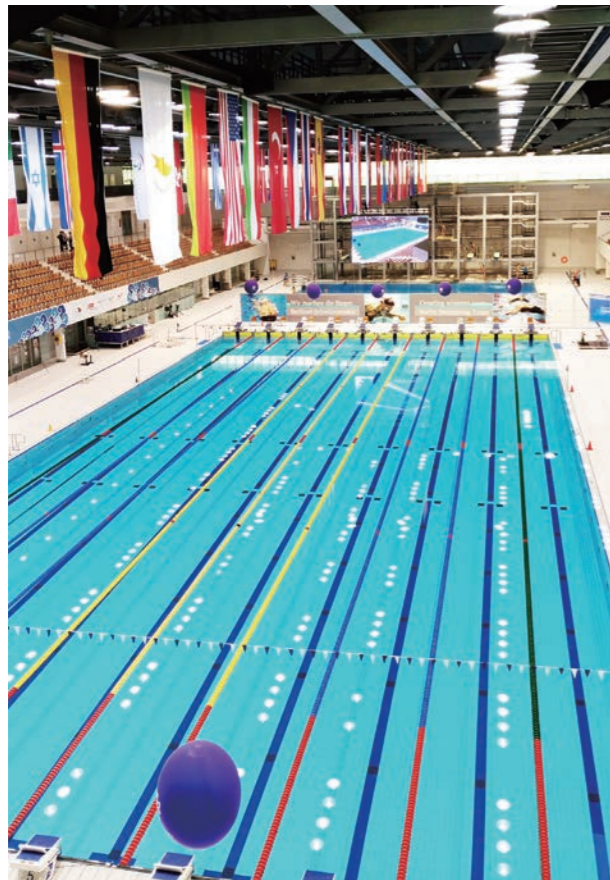
前回は、一般の水泳規則と異なる点を主に、パラ水泳競技規則について、お伝えしました。

今回は、2017年7月6日～9日に開催されたIDMベルリン大会についてお伝えしたいと思います。

#### ▶IDMベルリン大会/WPSワールドシリーズ

IDMベルリン大会は、毎年ベルリンで開催される国際オープン競技会です。

形としては、ドイツのパラ水泳の全国大会に海外からも参加を受け入れる、というのですが、パラ水泳で各国が主催する大会の中では、最も規模の大きい大会のひとつです。水泳だけで毎年500～600名の参加があります。今年は52か国から



大会が行われたプール。もちろん国際大会を開催できる基準を満たしています

600名以上の参加だったようです。

主催者はドイツパラリンピック委員会で、「IDMベルリン大会」として、陸上競技と水泳競技が実施されています(大会期日は別日程)。今回の水泳競技会は、今年から始まったWorld Para Swimming (旧IPC Swimming) のワールドシリーズのひとつとして位置付けられていました。

木曜日から日曜日までの4日間の競技会で、予選は午前9時から、決勝が午後4時から実施されます。予選の組み合わせはクラス別ではなく、エントリータイム順に組み合わせられます(近年はジャパンパラ大会でもこの方式です)。参加者数が多いので、予選が終わるのが午後2時以降になることも珍しくありません。チームにとっても競技役員にとってもタフな大会です。

実施種目は、パラリンピック大会では実施されない800m自由形や400m個人メドレー、自由形以外の200m種目など多様に設定されており、IDMベルリン大会の特徴となっています。

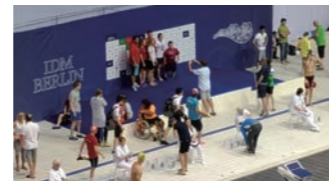
#### ▶マルチディスアビリティレース

予選は、クラスや年齢別などのカテゴリーに関係なく組み合わせられます。10レーンを使ってどんどんレースが行われていきます。

午後の決勝セッションは、少し複雑な仕組みです。決勝進出は、マルチディスアビリティ方式で、この大会が定めた「1000ポイントシステム」により決定されます。この「1000ポイントシステム」では、各々の選手の予選でのタイムを、その選手のクラスの世界記録と比較して1000点満点で計算します。例えば、世界記録にあと少し、だと982点、世界記録を上回る場合には1000点を超えて1008点、という感じです。点数の高い選手から、決勝進出となります。

また決勝は1つではなく、その種目のエントリー数に応じて、A決勝、B決勝、C決勝、ユース決勝など複数の設定があります。つまり、参加選手に少しでも多く「その種目を一日2回泳ぐ機会」を与えようということでしょうか。ユース選手や、各国代表の中でも他の大会では決勝にまだ届かないレベルの選手には、貴重な経験が得られる機会になるといえるでしょう。

すべての種目ではありませんが、50m種目や100m種目など指定された種目のA決勝の優勝～3位入賞者には賞金が授与されます(1位100ユーロ、2位75ユーロ、3位50ユーロ)。また、



表彰式の後は、選手たちもみんな記念撮影をしていました

合計ポイントの多い選手男女それぞれ6名には、スポンサー賞として、上から順に600ユーロ、350ユーロ、250ユーロ、150ユーロ、100ユーロ、50ユーロが贈られます。

#### ▶エントリーの際には…

この大会では、国際クラスのない選手の参加や各国代表以外の形、例えばクラブ所属での参加も認めています(クラブからの

参加の場合にも自国NPCから公式文書は必要です)。

国際クラスのない選手が、この大会で国際クラス分けを受検しない場合は、各国国内クラスのまま出場することが可能ということです。この場合は、エントリーの際にクラスとルールエクセプションを自分で申請する方式です(ルールエクセプションを申請しない場合には健常者と同じルール適用になります)。

#### ▶日本とは違うことも…

以前にもこのコーナーで何度かお伝えしたことがありますが、日本の競技会のように、大会側が選手への貸出し用の車いすを用意することはありません。シャワーやプールサイドでも自分の



プールサイドに多くの車いすの選手がいます。みんな自分の車いすでプールサイドまでやってきて、レースに出場します

車いすを使うのが基本です。

義足着用の選手はレース時に自分のレーンまで義足を着用していき、泳ぐ前に義足を外します。レースが終わり、プールから上がるとその周辺で義足を着用します。

日本でも、他の国際大会により近い形をとるべく、今年度からジャパンパラ大会などでは、選手への車いすの貸出しはなくなっていく予定です(競技会参加のための選手への貸出しについてなくしていく、という意味で、いわゆる一般的な緊急時対応の車いすの用意がないということではありません)。

#### ▶国際クラス分けはとても忙しかった…

IDMベルリン大会は、毎年国際クラス分けが実施されていますが、今年は特にクラス分け受検申し込みが多かったようです。視覚障がいや聴覚障がいのクラス分けが2日間、肢体不自由のクラス分けが3日間実施されました。肢体不自由においては、3日間で96名がクラス分けされました。肢体不自由だけで4チームのクラシフィア



今大会での肢体不自由のクラシフィアアのチーム

### 車いすが電動三輪車いすバイクに…?

リオパラリンピックの競技会場や選手村でもよく見かけたのですが、今回のIDMベルリン大会で写真を撮らせてもらいました。

日常用の車いすの前側にくっつけて使う「自転車の前半分みたいなもの」で、これを付けると、バッテリー付属の電動三輪車いすバイクのできあがりです。このバッテリーで8時間ほどもつそうです。

リオでは、スペインの選手など欧州の選手たちが使っているのをよく見かけました。選手村内やプールサイドをこれでスイスイと走っていました。選手村の食堂入口には荷物預かり所があるのですが、そこでは荷物として預けていました(食堂はリュックなど荷物を持って入ることができません)。

日本ではあまり見かけませんが、東京2020大会ではあちこちで見かけるのかもしれないね。



この選手が乗っている通常の車いすに、ハンドルの付いた一輪車のような電動ユニットを取り付けます



すると、この写真のように電動三輪車いすバイクになります。ハンドルを操作して進みます



電動ユニットは自立します。この写真はバッテリーを取り外してもらったところ。バッテリーは充電式です



バッテリーの横に、このユニットの簡単なイラストが書いてありました。文字はなくてもこのイラストでよくわかります